

令和4年度千葉県消費者団体との意見交換会の概要

1 日 時： 令和4年11月21日(月) 13:00～15:10

2 場 所： 千葉県消費者センター 2階会議室

3 出席者： 〔消費者団体〕

千葉県消費者団体連絡協議会 会長

我孫子市消費者の会 副会長

柏生活クラブ 会長

習志野市消費生活研究会 会長

松戸市消費者の会 会長

四街道市消費者友の会 会長

〔関東農政局〕

消費・安全部 部長 西村 裕二

消費生活課長 小林 寛之

消費者行政専門官 鈴木 健志

千葉県拠点 総括農政推進官 鶴岡 正広

4 情報提供

○「みどりの食料システム戦略について」

関東農政局 消費・安全部 部長 西村 裕二

5 情報提供後の意見交換概要

(消費者団体)

エリートツリーとはどのようなものか。また、建材となるものか。

(農政局)

エリートツリーは、成長が早くCO₂の吸収能力に優れた精英樹を農林水産大臣が特定母樹として指定するもので、成長が早いことや採材に支障がない幹の通直性があり、一般的なスギ・ヒノキの花粉量の概ね半分以下という基準があり、建材としての適性が高いことも指定の条件となっている。

(消費者団体)

米だけでなく国産小麦の生産も応援して欲しい。北海道産の小麦粉は手に入るが、関東近県産の小麦粉も手に入るようにしてもらいたい。

（農政局）

米の消費量が減っていることから、小麦や大豆への作付転換も図っているが、水田（湿田）では収穫量が上がらないといった課題もある。このため、土地改良による汎用性の高い農地作りを進めている。また、米の使い方として、米粉パンや米粉ケーキなど米粉による消費拡大も進めているところ。

（消費者団体）

有機農業の割合は現在何パーセントになっているのか。

（農政局）

確認のうえ、後日お知らせする。

<後日の追加回答>

令和２年度の我が国の耕地面積に占める有機農業取組面積の割合は０．６％である。
[yukimenseki.pdf \(maff.go.jp\)](https://www.affrc.go.jp/yukimenseki.pdf)

（消費者団体）

食料自給率５０％というのは、どのようにして達成するのか。

（農政局）

自給率を向上させることも、有機農業を拡大することも、作ったものを買っていただければ達成できない。生産者から消費者までの流れをつくることが重要。みどりの食料システム戦略では生産から加工・流通・消費の関連する皆さまのご理解の上で、取り組むことが必要。今回のような説明会の機会に環境に優しい農業や自給率の向上が必要であることを繰り返し申し上げて、生産から消費の関係性を醸成することがひいては自給率向上に繋がると考えており、この様な機会を数多く設けることとしている。

（消費者団体）

エビなどの養殖は自給率の向上に繋がるのか。

（農政局）

養殖は持続可能性の向上に寄与するもののひとつと考える。

（消費者団体）

消費者にとって食品が国産なのか外国産なのかよくわからない。産地偽装もあり何が正しいのか不安である。

しいたけだけは産地表示のルールが変わったようだが、それ以外のきのこが従来通りなのはなぜか。

（農政局）

外国産を国産と偽るような産地偽装は、地産地消や自給率向上の考え方に全く逆行するものであり、厳しく取り締まることとしている。なぜしいたけだけ表示ルールが変

更になったのかは、追ってお知らせしたい。12月からは水産物についても不当なルートでの流通を禁止する制度ができたところ。なまことあわびが対象だが、今後対象を拡大する予定。

<後日の追加回答>

林野庁が公表している「食品表示基準Q&A」改正に伴うしいたけの原産地表示についてFAQ（2022年3月20日作成）」の3に記載のとおり、しいたけ以外のきのこ類が今回の表示ルール変更の対象とならないのは、他のきのこ類については現状で菌床・ほだ木での輸入実態がほとんどないこと、輸入菌床による生産・販売実態が不明であることが理由である。

[shokuhin_hyoji_QandA_QandA-QandA-3.pdf \(maff.go.jp\)](https://www.maff.go.jp/shokuhin_hyoji/QandA/QandA-QandA-3.pdf)

[水産流通適正化法に係る周知・普及啓発資料：水産庁 \(maff.go.jp\)](https://www.maff.go.jp/)

（消費者団体）

有機農産物を学校給食から取り入れていることに興味があり、生産現場を見学してみたいが先方に取り次いでいただけないか。

（農政局）

弊省が公表したみんなの食育白書のなかで千葉県いすみ市の学校給食に有機米を取り入れた取組みを紹介している。千葉県内では、いすみ市と木更津市での取組が進んでいる。千葉県拠点で連絡をとり、見学の機会を設けられるようにしたい。

[Topic 食と環境の調和：農林水産省 \(maff.go.jp\)](https://www.maff.go.jp/Topic/食と環境の調和：農林水産省) ←みんなの食育白書令和3年度

（消費者団体）

農業従事者の減少対策を国としてどのように考えているか。

（農政局）

農家の高齢化を憂慮しており、新規就農者への支援を用意し担い手の育成を図っている。また、農地の集約化も重要であり、人・農地プランにより耕作放棄地をつくらない施策を展開している。農地バンクという農地の出し手と借り手のマッチングをおこなう組織も立ち上げている。農業者の減少を食い止めることと耕作放棄地を増やさない施策を展開しているところ。

（消費者団体）

養殖うなぎなども産地が中国産が国産に変わっているのではないかと。しじみやあさりも昔に比べてだんだんおいしくなくなっている。マイクロプラスチックが食味に影響を与えているのではないかと。

（農政局）

あさりの場合、畜養期間が一番長いところが産地となるが、偽装については厳格に対応している。マイクロプラスチックが海洋生物に悪影響を及ぼしていることは理解しているが、食味に与える影響は不明である。

[アサリの産地表示適正化のための対策について：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

[プラスチック資源循環（漁業における取組）：水産庁 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

（消費者団体）

食料自給率の目標は何を基準に決めているのか。

（農政局）

食料自給率は、需給表に基づき、今後の生産・製造・消費動向を踏まえ、生産等の構造を変えていくことによってここまで向上させることができるのではないかという全体の計算のもとに決定されたもの。

（消費者団体）

シャインマスカットは着色の悪いものができにくいときいているが、その割に価格が高い。

（農政局）

シャインマスカットは温暖化のもとでも着色不良が出にくいものであるが、仰るとおりまだまだ価格が高い。これは、シャインマスカットが後発品種であり、皮まで食べられるなどの理由により需要が旺盛であるが、供給が追いついていないことによるもの。今後生産が増えれば価格は落ち着くのではないかと。

（消費者団体）

温室効果ガス削減の見える化ラベルの星のマークというのがわかりにくい。普及するか心配。ばら売りのものはどのように表示するのか。

（農政局）

この普及には、消費者団体の皆さまの発信力に期待しており、このような機会に積極的に情報発信していきたい。現在、米・トマト・きゅうりについて、どのような生産方法に変えれば、どの程度の温室効果ガス削減ができたか分かる計算式をホームページに掲載しており、さらに品目数の増加を進めているところ。

削減割合により星の数を変え、定量的にお示しする見える化システムの実証を行っている。ばら売りのものなどについては、プライスラベルに表示するなど、どのように表示するかは今後取組みをすすめながら工夫していくことが必要。環境に配慮した農産物を買いたいと消費者の消費行動が変われば、そういったものでなければ売れないと生産者の生産行動も変わり、相乗効果により温室効果ガス削減や自給率向上にも繋がるものとする。

[農産物の脱炭素の「見える化」をしてみませんか：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

（消費者団体）

みどりの食料システム戦略の交付金総額を教えてください。

（農政局）

みどりの食料システム戦略推進交付金の令和3年度の全国総額は30億円で、今年度も同額の予算要求をしている。後日、予算のPR資料を千葉県拠点から提供する。

（消費者団体）

くだものなどでせっかく新品種が開発されてもすぐに海外に流出してしまう。国は流出防止の対策などを行っているのか。

（農政局）

種苗法を改正し、海外流出を防ぐ対策を行なっている。

[種苗法の改正について：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

【意見交換会の様子】

